

加藤 大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大院薬

薬学関係者による絶え間ない努力と情熱や英知の結集により人類は優れた新薬を開発し、多数の疾患をこれまで克服してきた。新薬が上市され、患者が安心して服用を続けるには、基礎研究、開発研究、さらには臨床研究などに多くの薬学研究者と社会との協力が必要であり、さらに最近のグローバル化の流れに伴い、連携や協力の国際化が進んでいる。このような世界的な潮流の中で国際薬学連合（FIP）は、組織の中に新たに薬学教育に重点を於いた FIP Ed を設立し、第 1 回国際会議が昨年 11 月 7～8 日に中国・南京で開催した。また国内では、平成 27 年度から改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムが実施され、昨年、日本薬学教育学会が設立され、その年次大会が 8 月 27～28 日に京都薬科大学で開催された。このように、国内外で薬学教育に関する議論が進んでいる今日、未来の薬学研究者の育成に関して議論する大事な時期であると言える。そこで本シンポジウムでは、国内外の薬学教育機関の関係者による、日本、米国、韓国、オーストラリアでの薬学教育の潮流と今後の展望の紹介を行い、これらの発表を通じて、基礎から臨床研究までの未来の薬学研究を担う人材育成に関しての方向性に関して議論したい。